



南蒲小学校：授業改善プラン全体計画

本校の教育目標

- 教育基本法
- 学習指導要領
- 東京都教育ビジョン(第4次)
- 大田区教育目標
(おおた教育ビジョン)等

人間尊重の精神に基づき、真理と平和を求め、心身ともに健全で自他の幸福を大切に、自ら学び考え行動する意欲と人のためにつくす態度をもち、国際社会で信頼される人間の育成を目指して、次の目標を設定する。

○いのちを大切にしよう

- ・すすんで学ぶ子(重点目標)
- ・心豊かな子
- ・健康な子

保護者・地域の期待・願い

- 命を大切に、思いやりのもてる子ども
- ルールを守り、良識ある子ども
- 礼儀正しい子ども
- 地域に関心をもつ子ども
- 自分の意思を
周囲に上手に伝えられる子ども
- 明るく元気に、
何事も積極的に行動できる子ども
- 本や新聞に興味をもつ子ども
(「学校に対する保護者アンケート」より)

学力向上にかかわる学校経営計画

- ・知識・技能の基礎学力の習得と活用及び思考力、判断力、表現力等を育成するとともに主体的、意欲的に学習に取り組む態度を養う。
- ・研究、研修、OJT等を通して授業改善を進めるとともに、多様な学習活動を設定し活力ある教育活動を行う。

授業改善の方向

- ねらいが明確で、学習内容を正確に把握できる授業
- 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得できる授業
- 自ら課題を発見し、主体的に解決できる喜びを味わえる授業
- 学校支援地域本部コーディネーターと連携し、地域教材・人材、外部団体を活用した授業
- ＜実効性を高める方略＞
- ・授業観察時の授業において、「目標・展開及び手立て・評価」が一体となった授業となるよう事前周知する。
- ・OJTによる授業力向上研修(ペア・グループ)を実施する。
- ・家庭学習週間を設定し家庭学習の定着を図る。
- ・朝学習の継続的な取組と大田区学習効果測定の結果を観察する。

《令和2年度：授業充実のための重点》

1. 子どもの意欲を高めるための指導を工夫し、基礎的な学力を身に付けさせます。

- ☞算数科の学習を通して、子どもがすすんで学習に取り組み、学び続けられる力を育成する授業を創造します。

2. 算数習熟度別少人数授業と補習教室や家庭学習との効果的な連動を図ります。

- ☞児童の実態に応じた授業改善、算数ステップ学習、東京ベーシック・ドリルの活用(学び直し、反復練習)、放課後補習・土曜補習の実施を通して算数の基礎的・基本的な事項の着実な習得を図り、授業での理解がより進むようにします。
- 家庭学習週間等で家庭と連携し、家庭学習の定着及び効果的な関連を図ります。

3. 教師の授業力向上に取り組めます。

- ☞OJTによる授業研究及び指導(ペア研修、グループ研修)を計画的に実施したり、大田区教育委員会等が主催する研修や指導教諭の模範授業に積極的に参加したりします。また、自己申告の授業観察、校内研究における授業研究を充実させたり、校内若手研修を実施したりすることで、教師一人一人が自らの授業力向上を図ります。

4. 図書室の機能充実と読書活動を推進させます。

- ☞大田区の学校図書館支援事業を受け、学習の情報センターとしての機能向上、読書学習司書や蒲田図書館と連携した読書習慣の定着などを図ります。

5. 落ち着いた学習に取り組めるよう、学習環境の充実を図ります。

- ☞学習のきまりが定着するよう継続的な指導を進めるとともに、規律ある生活態度を徹底することで、学習課題にじっくり取り組み、不注意によるミスなどが無くなるようにします。

6. 「地域の教育力」の一層の活用を図ります。

充実した授業を支えるための諸要件の改善

心の教育

- 異学年交流を通して
思いやり・信頼
の心情の高揚
- 道徳指導の充実
と人権教育の推進
- 規範意識の徹底
- 「あいさつは心をひらく
愛ことば」あいさつの励行

生活指導

- 全教職員の共通理解を
重視した一貫性のある生
活指導
- 校内研修会、生活指導タ
会、特別支援委員会、ケ
ース会議、いじめ防止対策委
員会などを活用した組織的
対応

体力の向上

- 体育・体育朝会での縄
跳び等への取り組み
- なんぼーランの実施
- 「食の教育」の推進
- 保健学習を中心とした
「健康教育」の推進
- 体力テストの活用
- 早寝・早起き・朝ごはんの推奨
- 体力向上モデル校

低学年：課題と授業改善案

国 語	
昨年度の成果と課題	【1年生】 ・毎日、音読カードによる家庭学習を取り入れることで、語のまとまりで読んだり、滑らかに読んだりできる児童が増えた。 ・「言葉の宝箱」と称した時間に、既習の文字を使った言葉や短作文作りをし、掲示することで語彙力が高まった。 ・平仮名・片仮名や特殊音節の使い方に差が出ている。短作文や聞き書きなどを多く取り入れ、慣れさせていく。 【2年生】 ・毎日の家庭学習で音読カードによる取り組みを行うことで、内容を考えながら読むことができる児童が増えた。 ・促音・拗音、カタカナや助詞の使い方に課題が見られ、文章を書く活動を継続的に取り組ませる必要がある。
課 題	○文字の拾い読みで、滑らかに音読する(語のまとまりで読む)ことが難しい児童と、そうでない児童との差が大きい。 ○文章を読んで内容を理解したり、内容に関する質問に答えたりする力に差が見られる。 ○平仮名、片仮名を正しく読んだり書いたり、促音や拗音、助詞を正しく使うことができない児童がいる。 ○質問に対する的確な答えを話すことができていないことがある。
授業改善案	◎国語の時間に音読の時間を設けたり、拗音や促音の学習では、多層指導モデルMIMを授業に取り入れたりする。 ○文章を繰り返し読み、大事な言葉や繰り返し使われる表現などに着目し、理解させる。文章に線を引いたり、文を書き抜いたりする指導を多く取り入れる。 ○短作文や日記など、文章を書く機会を多く設定し、正しい文字や文章を書くことに慣れさせる。 ○視写や聴写などができる教材を用意し、正しい表記・表現を意識した指導を取り入れる。

算 数	
昨年度の成果と課題	【1年生】 ・たし算ひき算の演算決定が難しい児童がいるため、「あわせて」「みんなで」「ちがいは」などのキーワードに線を引き、題意を意識させた。 ・10までの補数関係の理解が不十分で計算につまずく児童がいるため、算数ブロックなどの半具体物に置き換えることで、具体物をもつ、形、大きさなどを捨象し、数としてイメージさせる。 【2年生】 ・文章問題や数の説明をする際に、絵や図、言葉、ブロックなどを用いて、説明することができる。 ・繰り上がり、繰り下がりのある計算のやり方はある程度理解できてきたが、正確に計算する力が弱い面がある。 ・ものさしを使って、長さを読み取る、線を引くなどの細かい作業が注意深くできず、誤答することがある。 ・キーワードに着目して文章問題から立式に必要な情報を読み取るできるようになってきた。
課 題	○10までのたし算ひき算の計算に、指や算数ブロックが必要な児童がいる。 ○文章問題で、引き算たし算の演算決定が難しい児童が多い。 ○計算の基礎となる、通常暗算で行う20以下の足し算引き算やかけ算九九を誤答なく速くできるようにする。 ○まだ、定規の使い方に慣れておらず正確に使えていない。 ○はっきりとしたキーワードが問題文にない時に、文章問題から立式に必要な情報を読み取ることができていない。
授業改善案	◎たし算・ひき算の演算決定のキーワード「あわせて」「みんなで」「ちがいは」「～がいくつおおい」などの言葉に線を引いたり、問題文を何度も繰り返し読んだりし、題意を明確にして問題に取り組ませる。 ○「いくつといくつ検定」と称した、補数を覚えるための問題を定期的実施する。 ○フラッシュカードやブロックを使い1～20までの数や5や10の補数について慣れさせ正確に答えられるようにする。 ◎計算の小テストに継続して取り組みせ、正確な計算力をつける。 ○算数の学習だけでなく学校生活の中で定規を使って線を引く活動を増やして、正しく使えるようにする。 ○立式に必要な情報を文章から読み取りにくい問題では、絵・図や言葉の式等と一緒に確認し、正しく立式できるようにする。

生 活	
昨年度の成果と課題	【1年生】 ・公共施設を大切にしたり、安全に気を付けたりしていない児童がいるので、みんなで使う場所の利用の仕方に気付かせ、学習後、その後の利用の仕方について振り返りの時間を設けるようにした。 ・動植物や自然事象を通し、四季の変化に気付かせる際に、何をどのように観察したら良いか、視点などを明確にする。 【2年生】 ・家族や友達、先生、地域など、様々な人々への関心は育ってきたが、感謝の気持ちが希薄だったり、適切な態度がとれなかったりする児童がいる。 ・植物の世話や観察など自分から積極的に取り組める児童もいるが、興味が持続せず世話ができない児童がいる。
課 題	○友達や先生、地域の様々な人々への感謝の気持ちや、どのような振る舞いや態度が適切なのかという気付きが十分でない。 ○植物や生き物の命の大切さが十分に理解できていない児童がいる。
授業改善案	◎動植物の実物に触れさせることで、本物を実感させ、正しく理解し、楽しんで活動できるようにする。 ○継続して植物や生き物の世話や観察に取り組ませることにより、その変化や愛情や面白さを感じさせることで、命の大切さに気付かせる。 ○町探検で地域の人と触れ合ったり、学習発表会に向けて、これまでの自分の歩みを振り返ったりする場を設定することで、支えてくれていることへの感謝の気持ちやそれにふさわしい態度を考えさせる。

音 楽	
昨年度の成果と課題	【1年生】 ・月毎に季節の歌や幼稚園・保育園でも歌ったことのある歌を常時活動に取り入れることで、自信をもって歌ったり、意欲的に歌ったりする児童が増えた。 ・手拍子をしたり、音楽に合わせて体を動かしたりし、拍感がもてるようにした。 【2年生】 ・月毎に季節や行事の常時活動を取り入れることで、自信をもって歌ったり、意欲的に歌ったりする児童が増えた。 ・鑑賞活動を通して音楽から感じ取る力を伸ばすことができたが、音楽の様子を表す語彙が少ないことや、共通事項を正しく使えないことで、思ったことをうまく伝えられない場面がみられた。
課 題	○どの領域の活動にも意欲的に取り組んでいるが、楽器の基礎的な奏法、歌唱法を身に付けさせる必要がある。 ○音楽からたくさんのかを感じ取っているが、どのように感じたのかを適切な言葉で伝えられない。
授業改善案	◎学習のなかで様子を表す言葉と共通事項を関連付けて指導していき、思いと言葉をつなげ、伝える力を伸ばす。 ○伴奏やメロノーム、CDを使用したリレー奏や、手拍子でのリズム遊びを取り入れ、拍の流れを感じ取りながら歌ったり演奏したりできるようにする。 ○合奏活動はわかりやすいルールを設定し、音を合わせることの心地よさを体感させ、時間の許す限り多くの合奏活動を取り入れる。 ○ICT機器を活用し、身近なロールモデル(児童合唱や児童合奏など)を鑑賞させ、よりよい音楽を目指して取り組めるようする。

図 工	
昨年度の成果と課題	【1年生】 ・学習のめあてを把握せずに作業に取りかかってしまう児童がいるので、イメージづくりの手がかりを提示して指導した。 ・材料や用具の使い方が十分身に付いていない児童がいるので、デジタル教科書を活用し、十分に使い方を指導し慣れさせる時間を作った。 【2年生】 ・色鉛筆や絵の具、はさみなどの基本的な使い方を習得することができた。 ・材料や用具の特徴を考え、取捨選択して作品に取り入れることに課題が残る。 ・作品制作は積極的であるが、道具を大切にしない場合がある。
課 題	○作業を楽しむだけになってしまうことがあり、作品を最後まで丁寧に仕上げたり、もう一工夫したりすることができない児童がいる。 ○材料や用具の使い方が十分に身に付いていない児童がいる。 ○何を作ったらいいか、作り始めるまでに時間や支援が必要な児童がいる。 ○材料の特性や用具の効果的な利用方法が身に付いていない児童がいる。 ○積極的に取り組んでいる児童がほとんどであるが、活動のペースに差がみられる。 ○作品完成まで集中力を維持できない傾向がある。
授業改善案	◎学習のめあてを把握して、イメージをもって作業を始めさせる。 ○自分なりの工夫ができている作品を教員が紹介したり、友達の作品を自由に見に行ける時間を確保したりすることで、工夫の仕方を見つけ、創意工夫する態度を育てる。 ○作り始めの段階で意見を共有したり広げることで、豊かな発想を促す。 ○より良い作品にするための工夫の方法を考えさせたり指導したりして、概ね作品を仕上げられるように活動時間を設定する。 ○参考作品や絵図のある資料、デジタル教科書、動画を活用し、材料の使い方や用具の使用方法や片付け方をわかりやすく提示する。 ○短時間で完成できる題材も取り入れながら、完成する喜びを味わわせる。

体 育	
昨年度の成果と課題	【1年生】 ・苦手意識から消極的になる児童にはスモールステップを設定し、達成感を味わうことができるようにした。 ・真っすぐ走る、投げる、蹴る、捕る、握るなど、基本的な動作が身に付いていない児童がいる。逆さ感覚や腕支持感覚を養うために、固定遊具を使った運動遊びやマット遊びの活動を取り入れた。 【2年生】 ・ほとんどの児童が意欲的に取り組めたが、自分の苦手な学習に関してはすすんで取り組みたがらない児童も見られた。 ・すすんで練習に取り組み、逆上がりなど技能の向上が見られる児童もいたが、鉄棒やマット運動など、柔軟性や回転感覚に乏しく、技能獲得が困難な児童も見られた。
課 題	○経験不足から、体力テストに対応できるような多様な動きに乏しい。 ○自分の苦手な学習に関しては、あまり意欲的に取り組めていないことがある。 ○自分の体を起こしたり支えたりする技能や柔軟性、体のバランスをとる動きに課題が見られる。 ○ゲーム・ボール運動において、相手がとりやすいボールを投げたり、確実にボールをキャッチしたりする技術が十分ではない。
授業改善案	○遊びの要素を取り入れた運動をすることで、楽しく多様な動きができるようにする。 ○適宜振り返りをさせ、がんばったところや楽しかったことを確かめさせ、体育への意欲が持続できるようにする。 ◎授業前・導入にストレッチをし、柔軟性が高められる運動や力試しの運動を十分行えるようにする。 ○学習の中で、繰り返しボールを捕球する・投げる活動を行い、技術の基礎を固める。 ○動きを言語化して体の動き方を意識することで固有感覚を高め、苦手意識を持つ児童も積極的に活動することができるようにする。

中学年：課題と授業改善案

国 語	
大田区学習効果測定の結果分析（経年比較）	【第4学年】 （令和3年度結果：第4学年時） ・全体の平均正答率は目標値に届いていないが、問題別にみると、言葉の学習と物語文の読み取りは、概ね目標値を超えている。 ・記述式の問題では目標値を大幅に下回っており、提示された条件に合わせて事実を伝える文章や自分の考えを書く文章を書くことが苦手である。
昨年度の成果と課題	【3年生】 ・「はじめ」「中」「おわり」の構成を理解できるようになってきた。一方で、話の中心を捉えることに課題が見られる。 ・原稿用紙を正しく使って書くことが難しい。2年生までに学習した漢字や助詞を正しく用いて文章を書くことが難しい。 【4年生】 ・話の中心を意識しながら読んだり、聞いたりする活動を取り入れ、意識した読み方や聞き方が分かるように視点を決めて指導した。また、詩や俳句、短歌などを音読する機会を増やした。 ・段落に気を付けて書くことや文をつなぐ言葉の幅を増やしながら文の中で適切に使えるようにしてきたが、目標を達成するまでには至らなかった。
課 題	○話の中心を意識していないため、話の内容を正しく読んだり書いたりすることができていない。 ○助詞や接続詞を適切に用いて文章を書くことが難しい。既習の漢字やローマ字が定着しておらず、適切に使うことができていない。 ○図や表から大切な情報を見つけ、自分の考えを分かりやすい文章にするなど内容を読み取るための基礎的な力に課題がある。
授業改善案	◎説明文の学習を通して、文章のつくり、段落のつながりやはたらきについて重点的に指導する。 ○助詞、表記、接続詞、漢字、ローマ字、に関しては、朝学習での「書くって楽しいね」や「南作タイム（作文）」で練習したり、読書量を増やしたりして、日常の授業以外でも、継続して指導することで定着させていく。 ○説明文や物語文の読み取りでは、根拠にもとづいて文章を読んだり要点や要約を自分でまとめる活動や、図や表から分かることを自分の言葉でまとめる活動を取り入れていく。

社 会	
大田区学習効果測定の結果分析（経年比較）	【第4学年】 （令和3年度結果：第4学年時） ・全体の平均正答率は、目標値に達していないが、地図記号は、全国正答率を上回っている。 ・特に「くらしの移り変わり」と「店ではたらく人」と「安全な暮らし」の記述問題は正答率が低く、苦手である。
昨年度の成果と課題	【3年生】 ・社会科見学や町探検を通して分かったことを、地図を活用しながら意欲的にまとめることができた。一方で、地図記号や用語を用いて文章を書いたり、説明したりすることに課題が見られる。 ・地図や資料から必要な情報を読み取ることやそれらを比較したり関係付けて考えることが難しい。 【4年生】 ・基礎・活用の基礎的な力に課題がある。 ・調べ学習は興味・関心をもって取り組んでいたが、どの資料を読み取ればいいのかわからず、上手にまとめることができなかった。
課 題	○土地の立地条件から、住む人々の暮らしと結び付けて比較したり関係づけて考えることが難しい。 ○地図や資料から必要な情報は何か理解することが難しい。また、目的意識をもって読み取り、まとめることに課題がある。 ○自分の生活と結び付けて活用する力に課題がある。 ○生産者の工夫について消費者の視点に立って把握することができていない。
授業改善案	◎様々な資料を提示し、社会的な事象について、因果関係や人々の思いについて思考する場を設定して指導する。 ○「なぜそこにあるのか」など疑問をもち、その立地条件に着目し、問題を解決していく授業を展開する。 ○社会科見学や取材、調べ学習を通して分かったことや気付いたことを、地図や資料を活用しながら用語を使ってまとめる活動を取り入れる。 ○体験的な学習の場を多く設定し、どんなことを学んだか振り返りができるよう指導する。また、様々なものに触れ、そこに関わる人々の思いについて実際に見たり、聞いたりすることで、考えを深められるように指導する。

算 数	
大田区学習効果測定の結果分析（経年比較）	【第4学年】 （令和3年度結果：第4学年時） ○基礎の校内平均正答率は80％を超えているが、活用は52％と低い。 ○図形の領域で54％と正答率が低い。
昨年度の成果と課題	【3年生】 ・繰り上がり、繰り下がりのある計算や乗法が定着していない。 ・文章問題から具体的な場面をイメージし、立式に必要な情報は読み取ることが難しい。 【4年生】 ・基礎的な計算が身に付いていない児童が2割程度いる。 ・図形の性質を調べたり、図形を丁寧に描いたりすることに課題がある児童が多い。
課 題	○確実に四則計算を行ったり、量感をイメージして予測して測ったりすることに課題がある。 ○文章問題、絵や図から立式に必要な情報を読み取り、設問に対する正しい答えが求められない。 ○コンパスや分度器を使って、角度を測ったり、図形を正確に描いたりすることができないことがある。
授業改善案	◎学習した内容が定着するように、タブレットドリルや復習を繰り返す行う。 ○計算や図形の理解が不十分な児童には、スモールステップ学習で個別に対応し、「できた」「分かった」という体験を積み重ねることで、知識の定着を図る。 ○実物を操作したり、自分の体験と結び付けて考えさせたりすることで、量感をイメージして学習させる。 ○日頃から計算練習を取り入れ、早く正確に計算する力を身に付けさせる。

理 科	
大田区学習効果 測定の結果分析 (経年比較)	【第4学年】 (令和3年度結果:第4学年時) ・全体の平均正答率は目標値に届いておらず、領域別にみると知識・技能の点数が目標点から離れてしまっている。 ・分野別にみると「風やゴムのはたらき」は、概ね目標値に近づいている。
昨年度の成果 と課題	【3年生】 ・観察する視点やお手本を提示することで、どこに注目して観察し、考察すればよいのか分かるようになってきた。 ・理科で用いる用語を意識するようになってきたが、それらを理解した上で書いたり説明したりすることには課題がある。 【4年生】 ・ノートやプリントに観察や実験した結果を記録することを継続的に行ったことで、関心・意欲が高まってきている。 ・自然事象に興味をもつ子どもが多くなった。理由を明確にして現象を説明することにはまだ課題がある。
課 題	○自然事象に興味をもっているが、相違点や共通点を考えたり、用語を正しく使ったりして説明することに課題がある。 ○温度計や虫めがねなど、状況に応じて操作することに正しい理解が身に付いていない児童がいる。 ○「生命・地球」領域では主に観察を行うが、動植物や星空を実際に観察することが難しい。 ○実験の条件を揃えるもの、複数の実験から考察することなどの課題を解決することが難しかった。
授業改善案	◎相違点や共通点に気が付くことができるよう視点を与え、結果にもとづいて理科で用いる大事な言葉を使って考えを説明する授業展開や場をつくっていく。 ○虫眼鏡や温度計など実験器具を正しく用いることができるよう、継続的に指導する。 ○実験のめあて、自分の考え、結果、考察などしっかりとノートにまとめられるようにする。また、定期的に復習し、学習の定着を図る。 ○「生命・地球」領域の学習においては、実際に観察・実験をする体験をできるだけさせるような学習計画を立てるようにする。また、天候や生育状況などによりそれが難しい場合にはICT機器を活用するようにする。 ○植物の成長や気候の変化などは、継続観察を通して、興味・関心がもてるよう指導する。

音 楽	
昨年度の成果 と課題	【3年生】 ・前年度十分な指導が実施できず、鍵盤ハーモニカの運指について、個人差が大きい。また、前学年までの既習事項に自信のない児童がいる。 ・音楽から感じ取ったことを、適切な言葉や表現で伝えることが難しい。 【4年生】 ・リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指について、個人差が大きい。また、前学年までの既習事項に自信のない児童がいる。 ・音楽から感じ取ったことを、適切な言葉や表現で伝えることが難しい。
課 題	○リコーダーや鍵盤ハーモニカの運指について、個人差が大きい。また、前学年までの既習事項に自信のない児童がいる。 ○音楽から感じ取ったことを、適切な言葉や表現で伝えることが難しい。 ○これまでに学習したことを活用して考えたり、作り上げることに課題がある。
授業改善案	◎計画的に復習の時間を取り入れ、既習事項について着実に理解させ自信をつけさせる。 ○客観的に振り返りができるよう、聴き合ったり、自分たちの演奏の録音を鑑賞したりする学習を取り入れる。 ○わかったことを伝えるために、言葉カードを活用して語彙を増やすとともに、共通事項について正しく理解させる。 ○フラッシュカードやICTを活用し、既習事項の復習や技能(持ち方、運指など)の指導を行う。

図 工	
昨年度の成果 と課題	【3年生】 ・水彩絵の具の様々な技法に触れることで、表現の幅が広がり、作品に活用する姿が見られた。 ・金づちや釘抜き、きりの安全な使い方を習得することができたが、主題に向かう計画性に課題がある。 ・作品制作については積極的であるが、集中力、持続力に欠ける児童がいる。 【4年生】 ・アクリル絵の具の基本的な使い方は習得することができたが、イメージに合う塗り方や混色加減については課題が残る。 ・のこぎりの安全な使い方を習得することができたが、主題に向かう計画性に課題がある。 ・作品制作については積極的であるが、道具を大切にしない場合がある。
課 題	○材料の特性や用具の効果的な利用方法が身に付いていない児童がいる。 ○発想の段階でつまずき、自分の意見をもつことが困難な場合がある。 ○道具の扱いに関して指導がさらに必要である。 ○積極的に取り組んでいる児童がほとんどであるが、活動のペースに差がみられる。 ○作品完成まで集中力を維持できない傾向がある。
授業改善案	◎材料の特徴を全体共有したり確かめ合ったりして、効果的な表し方を考察する時間を設ける。 ○題材目標に向けて自分のイメージがもてるよう、適宜ワークシートを活用する。 ○参考作品や絵図のある資料、デジタル教科書、動画を活用し、材料の使い方や用具の使用方法、片付け方をわかりやすく提示し徹底させる。 ○自分なりの工夫ができている作品を教員が紹介して全体指導に生かすことで、自分の作品へのこだわりをもつ態度を育てる。 ○発想の段階で話し合いの時間を設け、意見を共有し、作品のイメージをもたせる。 ○短時間で完成できる題材も取り入れながら、完成する喜びを味わい、次の学習の意欲を高める。

体 育	
昨年度の成果 と課題	【3年生】 ・どの学習活動も意欲的に取り組むことができるようになってきている。 ・集団の中で適切に自分の意見を伝えたり、主体的な行動をしたりすることに課題がある。 【4年生】 ・投げる動作について、学校全体での取り組みもあり、活動する機会が増え、意欲的に取り組んでいる。 ・ゲーム型の授業では、得意な児童が中心となっていて、苦手な児童は消極的な参加となっている。
課 題	○相手がとりやすいボールを投げたり、確実にボールをキャッチしたりする技術や、最後まで懸命にゲームに取り組む体力が持続しない。 ○ゲーム型の授業では、得意な児童が中心となっていて、苦手な児童は消極的な参加となっている。集団の中で適切に自分の意見を伝えたり、主体的な行動をしたりすることに課題がある。 ○ゲームのルールを守ることができない児童がいたり、必要以上に勝ち負けにこだわったりしてしまうことがある。 ○投擲力に関して、正しいフォームで長い距離を投げる力に課題がある。
授業改善案	◎基本的な動作の習得を目的とする活動の時間を毎時間必ず設定する。 ○技術の向上や作戦づくりなどに積極的に挑戦する姿勢を認め、めあての達成に向けて自分なりに工夫ができる機会を設定する。 ○ゴール型運動、ネット型運動等の学習を通じて、相手によって力加減や投げる方向をコントロールしたり、確実に受け止めたりすることができるように視覚的に、体験を積んで練習する機会を増やす。 ○個人の力に合わせためあてを設定し、ルールを明確にする。また、チームの中で教え合い学習の場を設定し、勝ち負けにこだわらず全員がそれぞれのめあてをもって学習できるようにする。「できた」という達成感を味わうことができるようにすることで、苦手な児童も積極的に参加できるようにする。

高学年：課題と授業改善案

国 語	
大田区学習効果 測定の結果分析 (経年比較)	【第5学年】 (令和2年度結果:第4学年時) ○正答率が目標値や区の平均値を下回っているものが多い。 ○領域別では「書くこと」「読むこと」が弱い。 ○観点別では、「書く能力」「読む能力」の正答率が低い。 (令和3年度結果:第5学年時) ○すべての項目の正答率が目標値や区の平均値を下回っているものが多い。 ○領域別では「言語文化に関する事項」が弱い。 ○観点別では、「主体的に学習に取り組む態度」の正答率が低い。
	【第6学年】 (令和2年度結果:第5学年時) ○正答率は、目標値と区の平均値を上回った。 ○領域別では、「話すこと・聞くこと」「読むこと」の正答率が区の平均より低い。 ○休校中の課題として過去問を一度解き、解説したことで試験の形式に慣れることにつながった。 (令和3年度結果:第6学年時) ○正答率が目標値や区の平均を下回っている項目が多い。 ○問題内容別では、「話し合いをもとに活動報告を書きなおす」が非常に低い。 ○領域別では、情報の扱いに関する事項」が弱い。
昨年度の成果 と課題	【第5学年】 ・要約をする時のポイントや文章の構成を指導することで、説明的文章の読み取りができるようになってきた。 ・漢字の習得については個人差が大きく、引き続き課題が見られる。 【第6学年】 ・例文を活用し、文章全体の組み立てを考えて文章を書く指導を継続して行う必要がある。 ・漢字検定の過去問題に積極的に取り組むことで、習得状況が改善された。
課 題	○文章に書かれていることを正しく読み取る力が弱い。 ○一定の条件を満たすような文章を書くことが苦手な児童が多い。 ○漢字の習得における個人差が大きい。
授業改善案	◎物語文の読解では、描写を基に登場人物の心情や様子をとらえる力、説明文の読解では、叙述を基に文章構成や要旨をとらえる力を身に付けさせる。 ○様々な問題集から問題を解き、様々な題や条件に対応して文章を書く場を設定する。また、例文を活用し文章全体の組み立てを考えて文章を書く指導を継続して行う。 ○個別に漢字の習得状況を把握し、漢字検定の過去問題及び、プリントを活用して当該学年までに配当されている既習の漢字の読み書きができるようにする。

社 会	
大田区学習効果 測定の結果分析 (経年比較)	【第5学年】 (令和2年度結果:第4学年時) ○正答率が目標値や区の平均値を2～5ポイント下回っている。 ○領域別では区の平均に対して「地域や市の様子」「生産や販売」が弱い。 ○観点別では、「社会的な思考・判断・表現」「観察・資料の活用の技能」の正答率が特に低い。 (令和3年度結果:第5学年時) ○正答率が目標値や区の平均正答率を7～8ポイント下回っている。 ○領域別正答率では特に「都道府県の様子」「特色ある地域の様子」が低い。 ○観点別正答率では、「主体的に学習に取り組む態度」が低い。
	【第6学年】 (令和2年度結果:第5学年時) ○正答率は目標値や区の平均正答率、全国の平均正答率を上回った。 ○4つの領域ともに、正答率が高い。 ○観点別においても、各正答率を上回っているが、「社会的事象への関心・意欲・態度」が比較的低い。 (令和3年度結果:第6学年時) ○正答率がすべての領域で下回った。 ○特に農水産業、工業の領域が弱く、問題に慣れていないことがうかがえる。
昨年度の成果 と課題	【5年生】 ・基礎・活用の力について、課題がある。 ・目的意識をもって、地図や資料から必要な情報を読み取る力に課題がある。 ・土地の立地条件と住む人々のくらしを結びつけて比較したり関係付けことが難しい。 【6年生】 ・都道府県の名称と位置についての理解がとても低い。 ・用語の理解や知識が定着していないことがうかがえる。
課 題	○関係諸機関の基本的な役割や連携を関係付けて考えることが課題である。 ○資料等を読み取り、自分の考えをまとめる力が十分ではない。自分の考えをもって授業に取り組むことが課題である。
授業改善案	◎都道府県の名称と位置について、プレテストなどで着実に定着させる必要がある。 ○授業では適宜地図帳やグラフ等を使用した問題に取り組む活動をしなが、地図や資料に習熟する指導を行う。 ○既習事項も折に触れて解説したり、用語の説明をしたりする必要がある。

算 数	
大田区学習効果測定の結果分析 (経年比較)	【第5学年】 (令和2年度結果:第4学年時) ○大田区学習効果測定の結果では、正答率が目標値や区の平均値から4～6ポイント下回っている。 ○領域別では、「量と測定」と「図形」が区の平均より7ポイント以上下回っている。 ○観点別では、特に「知識」の正答率が低い。 (令和3年度結果:第5学年時) ○大田区学習効果測定の結果では、正答率が目標値や区の平均値から6～10ポイント下回っている。 ○領域別では、「図形」と「データの活用」が目標値に比べて大きく下回っている。
	【第6学年】 (令和元年度結果:第4学年時) ○大田区学習効果測定の結果では、正答率が目標値や区の平均値と同じか、上回っているものが多い。 ○領域別では、「量と測定」がやや弱い。 ○観点別では、特に「知識」の正答率がやや低い。 (令和2年度結果:第5学年時) ○正答率は目標値を上回ったが、区の平均値よりはやや低い。 ○領域別では、「数と計算」、「量と測定」が区の平均より低い。 (令和3年度結果:第6学年時) ○大田区学力効果測定の結果では、正答率が目標値や区の平均値から3～5ポイント下回っている。 ○領域別では、「分数と小数」とその計算や「割合」が区の平均値から6ポイント以上下回っている。 ○観点別では、「主体的に取り組む態度」の正答率が低い。
昨年度の成果と課題	【5年生】 ・図形の性質を調べたり、図形を丁寧に描いたりすることが苦手な児童が多い。 ・今まで学習したことを生かし、様々な場面に応じて柔軟に知識を活用する力に課題がみられる。 ・個人差が大きく、基礎・基本が身に付いていない児童がみられる。 【6年生】 ・個人差はあるが、わり算の計算や小数・分数の仕組みやその計算など基本的内容が習熟されていない児童が見られる。 ・倍の計算などで演算決定を誤る児童が多い。 ・割合を求める計算で、小数で表したり、%で表したりすることが苦手な児童が多い。
課 題	○小数・分数の計算がかけ算・わり算共にできていない。小数点の付け方、約分の仕方に課題がある。 ○コンパス・分度器・三角定規を使って正確に作図をすることができない。 ○基礎基本の計算力の定着ができていない。
授業改善案	◎タブレットドリルを活用して学習したことが確実に身に付くようにする。 ○習熟度別指導を通して、一人一人の実態を把握して個に応じた指導を充実させる。 ○問題をよく読み、ノートに自分の考えを書かせる。その際、図や数直線で表すことを意識的に行い、筋道立てて考える力を養っていく。 ○基礎・基本の定着が不十分な児童には、スモールステップで個別に対応し、「できた」「分かるようになった」という経験を積み、算数への意欲・関心を高めていく。

理 科	
大田区学習効果測定の結果分析 (経年比較)	【第5学年】 (令和2年度結果:第4学年時) ○正答率は目標値に対して、基礎で5ポイント、活用で7ポイント下回っている。 ○観点別では目標値に対して「自然事象についての知識・理解」で8ポイント、「科学的な思考・表現」「科学的な思考・表現」で6ポイント下回った。 (令和3年度結果:第5学年時) ○正答率は目標値に対して、基礎で9ポイント、活用で10ポイント下回っている。 ○観点別では目標値に対して「主体的に学習に取り組む態度」で15ポイント弱下回っている。
	【第6学年】 (令和元年度結果:第4学年時) ○正答率が目標値や区の平均値をやや下回っているものが多い。 ○観点別では「科学的な思考・表現」「自然事象についての知識・理解」が目標値をやや下回った。 (令和2年度結果:第5学年時) ○「基礎」「活用」ともに、区の平均正答率を上回ってはいるが、目標値には達することができなかった。 ○観点別では、「科学的な思考・表現」のみ目標値や各平均正答率を上回るが、他の観点や領域は低くなっている。 (令和3年度結果:第6学年時) ○正答率は、基礎では4ポイント目標値を上回っているが、活用については11ポイント下回っている。 ○観点別では、目標値に対して、全ての観点で7・8ポイント下回っている。
昨年度の成果と課題	【5年生】 ・自然事象に興味をもっているが、相違点や共通点を考えたり、用語を正しく使って説明することが課題である。 ・状況に応じて温度計や虫めがねを操作することが理解できていない。 ・動植物や星空の観察を行うことが難しい。 【6年生】 ・人や魚のたんじょうなど、生命にかかわる学習については、主体的に取り組めていたので目標値を上回っている。 ・植物の発芽や成長、天気や流れる水のはたらきなど、自然にかかわる学習の定着ができていない。
課 題	○5年生は「雨水のゆくえと地面の様子」「もののあたたまりかた」について、丁寧な復習が必要である。 ○記述問題に対する無回答が多く、平均正答率が改善しない。 ○6年生は全領域について、丁寧な復習が必要である。 ○観察や実験、ノートへまとめる力はあるが、単元テストで結果が出ない児童が多い。
授業改善案	◎学習したことを、記述で答えたり説明できるよう、ノート指導やプレテスト等で学習内容の定着を確認していく。 ○目標値を下回った領域・単元は、基礎・基本を確実に身に付けられるよう、復習する。 ○体験的に学ぶ活動をしっかりと計画・準備し、学習の定着につなげる。 ○実物や図、表、グラフなどを使って、見た目では分かりにくい変化について、より確かな知識や表現力を身に付けさせる。

音 楽	
昨年度の成果と課題	【5年生】 ・常時活動で鑑賞活動を取り入れることで、音楽を構成する要素を聴き取ろうとする児童が増えた。 ・器楽指導では個別の指導を計画的に取り入れたことで一人一人の技能の習得に成果がみられたが、まだ課題が残る。 【6年生】 ・常時活動で季節の歌や行事の歌を取り入れることで、歌唱活動に意欲的に取り組む児童が増えた。 ・器楽指導では個別の指導を計画的に取り入れたことで一人一人の技能の習得に成果がみられたが、まだ課題が残る。
課 題	○一人一人での演奏はできるが、お互いの音を聴き合って演奏することが難しい場合がみられる。 ○前年度十分にリコーダーや鍵盤ハーモニカに取り組めず、運指に不安の残る児童がおり、技能の差が大きくなっている。 ○学習したことを総合的に活用する学習が苦手である。
授業改善案	◎計画的に復習の時間を取り入れる。フラッシュカードやICTを活用し、既習事項の復習や技能(持ち方、運指など)の指導を行い、自信をもって学習に取り組めるようにする。 ○リコーダーや鍵盤ハーモニカなどの器楽指導は運指を丁寧に確認し、スモールステップを組んで指導する。 ○個別に指導する時間を計画的に取り入れる。

図 工	
昨年度の成果と課題	【5年生】 ・水彩絵の具とアクリル絵の具の様々な技法に触れることで、表現の幅が広がり、作品に活用する姿が見られた。 ・作品制作については積極的であるが、道具を大切にしない場合がある。 ・基本的な技能を身に付けたあとの独創性が足りない児童がみられる。 【6年生】 ・作品制作については積極的であるが、集中力、持続力に欠ける児童がいる。 ・想像して絵に表す活動は得意な児童が多いが、描写力に課題が残る。 ・様々な材料に触れる単元を多く取り入れたことで、主題に基づいて材料を取捨選択する態度は高まった。
課 題	○技能を身に付けたあと主題を持たせる際に、意見や工夫が深まらない。 ○計画的に作業を行う意識が低い。 ○作品完成まで集中力を維持できない傾向がある。 ○材料の特性や用具の効果的な利用方法が身に付いていない児童がいる。
授業改善案	◎構想の段階で、グループごとに意見交換の場を設け、題材についてのイメージを伝え合う中で、新たな主題や効果的な表現方法を考察する時間を設ける。 ○自分なりの工夫ができている作品を教員が取り上げて全体指導に生かすことで、自分の作品へのこだわりをもつ態度を育てる。 ○制作過程ごとに目標設定をし、段階的に作業を進める。また適宜ワークシートを活用し、計画的な作業を意識付ける。

家 庭	
昨年度の成果と課題	【5年生】 ・常時活動で主体的に取り組む児童が増えた。 ・学習したことを自分の生活に生かす着実な姿勢が十分でない。 【6年生】 ・常時活動で主体的に取り組む児童が増えた。 ・学習したことを自分の生活に生かす着実な姿勢が十分でない。
課 題	○製作の際の細かい作業やミシンの使い方においては、理解・定着に、個人差がある。 ○学習したことを自分の生活に生かす着実な姿勢が十分でない。 ○製作の際、興味をもって取り組むが、作品に創意工夫を生かそうとする姿勢に欠ける。 ○バランスのよい食事について理解はしているが、実際には好きな物を摂取し、偏った摂り方になってしまう傾向がある。 ○活動に対する個人差が大きく、必要な材料や手順を踏まえ、製作計画や調理計画を立てられない児童が多い。 ○学習して身に付けたことを生活に役立てて取り組むことに課題が見られる。
授業改善案	◎製作や調理の学習に際して、実物標本や段階標本などの提示の仕方を工夫し、作業中に児童が確認できるようにする。 ○ワークシートやチェックカードなどを活用して授業の振り返りを行い、家庭での実践を心がけさせる。 ○生活に役立てた取組や友達の実践を共有し、自分や家族のためによりよい生活を送るための取組をさらに考えられる場を設定する。

体 育	
昨年度の成果と課題	【5年生】 ・学校全体の取り組みもあり、ボールを投げることについて意欲的に取り組んでいた。 ・ゲーム型の授業では、得意な児童が中心となっていて、苦手な児童は消極的な参加となっている。 【6年生】 ・学校全体の取り組みもあり、遠くに投げるイメージを持っていたため、投擲力に改善が見られた。 ・ネット型の授業では、運動に苦手意識のある児童も楽しむ姿が見られた。
課 題	○興味をもって取り組める運動に差が見られ、運動そのものに苦手意識を強くもつ児童がいる。 ○投擲力やボールを捕る運動に課題がある。 ○苦手意識から個人競技にモチベーションが保てない児童が多い。
授業改善案	◎チームで協力して練習方法を考えたり、技能に応じて作戦を立てたりすることで、意欲を高めていく。 ○児童が集団で関わられるような学習を選び、学習形態を工夫する。 ○児童が互いに助言し合い、高め合っていけるように活動の振り返りを行う。

外国語	
昨年度の成果と課題	【5年生】 ○チャンンツやゲームには、楽しみながら取り組むことができている。 ○書くことに対しては苦手意識が強くなかなか取り組めない。 【6年生】 ○チャンンツやゲームを通して、質問に対して返事をするに慣れてきた。 ○作文課題に苦手意識があり、難しい問題でも取り組もうとしないことがある。
課 題	○外国語に対して初めから苦手意識を示し、積極的に取り組もうとしない児童がいる。 ○外国語を使ってコミュニケーションを取ることに苦手意識をもつ児童が多い。
授業改善案	◎ゲーム活動を多く取り入れ、楽しみながら外国語を学べる学習環境をつくる。 ○発音練習を何度も繰り返し行い、自然とその単語を発音できる環境をつくる。